

平成22年 11月1日	<b>農作物病虫害発生予報</b> <b>11月</b>	山口県病虫害防除所 山口県農林総合技術センター
----------------	---------------------------------	----------------------------

<b>～目 次～</b>	
I 予報の概要	1
II 予報	
【主要病虫害】	2
【その他の病虫害】	8
III 参考(予報の見方、気象予報、11月のテレホンサービスの内容)	9

## I 予報の概要

農作物名	病虫害名	予想発生量	現 況	
			平年比	前年比
ハクサイ	軟腐病	やや多	平年並	前年並
	べと病	平年並	やや少	少
キャベツ	黒腐病	やや少	やや少	前年並
アブラナ科野菜	コナガ	平年並	平年並	前年並
イチゴ	うどんこ病	やや多	やや多	少
	アブラムシ類	平年並	平年並	前年並
	ハダニ類	平年並	平年並	少
野菜全般	ハスモンヨトウ	やや多	平年並	多
	オオタバコガ	多	多	多

作物	担当者
普通作	唐津(病害) 中川(虫害)
果樹	村本(病害) 河村(虫害)
野菜	村本(病害) 溝部(虫害)

お問い合わせ先	
TEL	(083) 927-4006
FAX	(083) 927-0214

ハクサイ

1 軟腐病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	平年並	前年並	発病初期

(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の巡回調査では、発生ほ場率20.0%(平年11.5%)、発病株率0.4%(平年0.4%)、発病度0.1(平年0.2)で平年並みであった(±)。

イ 気象予報では、11月の気温は平年並み～高く、降水量は多い(+)。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

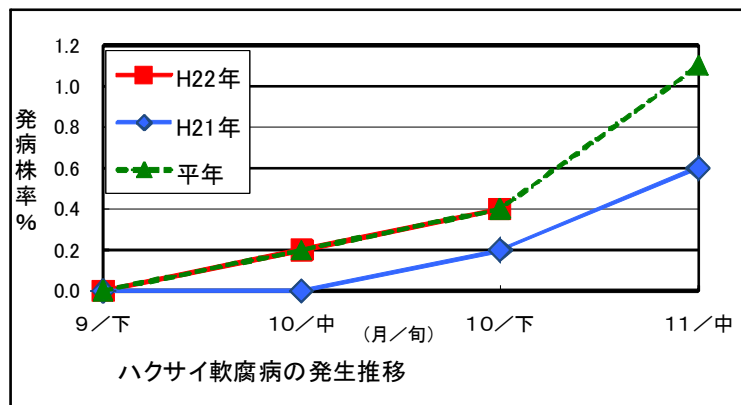
ア 排水溝を設置するなど、排水対策を徹底する。

イ 発病株は取り除き、ほ場外で処分する。

<防除のポイント>

ア 結球期ころから発生しやすくなる。多発生後は防除が困難となるので、初期防除に努める。

イ 病原細菌は風雨に伴う傷口や害虫による食害痕から侵入するため、強風雨前後の防除と害虫の防除を徹底する。また、管理作業によって葉を傷付けないようにする。



2 ベと病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	やや少	少	発病初期

(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の巡回調査では、発生ほ場率30.0%(平年43.9%)、発病株率20.2%(平年22.1%)、発病度5.1(平年6.0)で平年に比べやや少なかった(-)。

イ 気象予報では、11月の気温は平年並み～高く、降水量は多く、日照時間は少ない(+)。

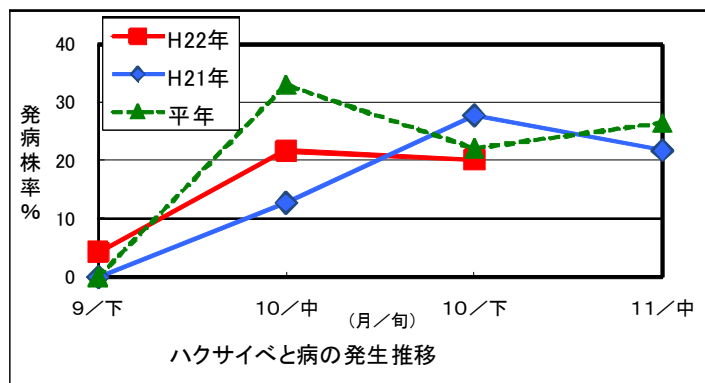
(3) 防除対策

<耕種的防除等>

- ア 肥料切れは発病を助長するため、肥培管理に注意する。
- イ 被害残渣は、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

<防除のポイント>

- ア 結球開始前までの防除を徹底する。
- イ 薬剤耐性の発達を避けるため、同一系統薬剤の連用は避ける。



キャベツ

1 黒腐病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	やや少	前年並	発病初期

(2) 予報の根拠

- ア 10月下旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平年15.4%)、発病株率0% (平年2.1%)、発病度0 (平年0.5) で平年に比べやや少なかった(-)。
- イ 気象予報では、11月の気温は平年並み～高く、降水量は多い(+)

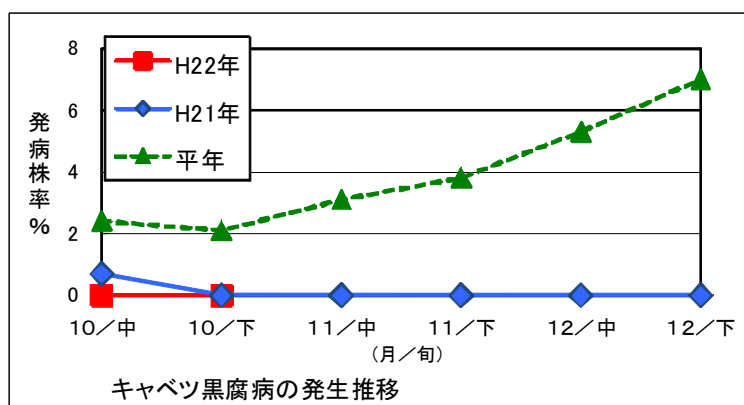
(3) 防除対策

<耕種的防除等>

排水溝を設置するなど、排水対策を徹底する。

<防除のポイント>

強風や大雨の後の防除と害虫の防除を徹底する。



## アブラナ科野菜

### 1 コナガ

#### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	若齡幼虫時

#### (2) 予報の根拠

10月下旬の巡回調査では、ハクサイでの発生ほ場率0%（平年5.8%）、10株当たり虫数0頭（平年0.1頭）で平年並みであった。キャベツでの発生ほ場率16.7%（平年16.5%）、10株当たり虫数0.2頭（平年0.3頭）で平年並みであった（±）。

#### (3) 防除対策

##### <防除のポイント>

薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## イチゴ

### 1 うどんこ病

#### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	少	発病前または発病初期

#### (2) 予報の根拠

ア 10月下旬の巡回調査では、発生ほ場率15.0%（平年16.1%）、発病株率7.0%（平年5.0%）、発病葉率4.2%（平年2.7%）で平年に比べやや多かった（+）。

イ 気象予報では、11月の気温は平年並み～高く、降水量は多い（+）。

#### (3) 防除対策

##### <耕種的防除等>

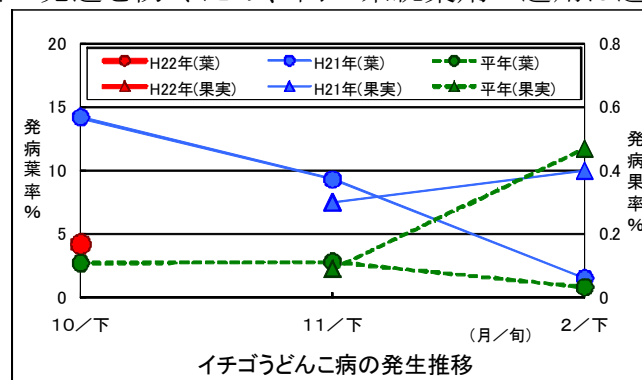
被害茎葉は伝染源となるので、施設外に持ち出し処分する。

##### <防除のポイント>

ア 古葉を除去し、通風をよくすると共に、葉裏への薬液の付着を高める。

イ 薬液が葉裏や新芽にかかるように、動噴の圧力をやや弱くし丁寧に散布する。

ウ 薬剤耐性菌の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避ける。



## 2 アブラムシ類

### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発生初期

### (2) 予報の根拠

ア 10月下旬の巡回調査では、発生ほ場率30.0%（平年28.4%）、寄生株率5.9%（平年4.5%）で平年並みであった（±）。

イ 山口市大内の黄色水盤トラップにおける10月の誘殺数は、平年並みであった（±）。

ウ 気象予報では、11月の気温は平年並み～高い（+）。

### (3) 防除対策

#### <防除のポイント>

ア 薬剤散布時は、葉裏までムラなくかかるよう十分な量の薬液を散布する。

イ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 3 ハダニ類

### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	少	発生初期

### (2) 予報の根拠

ア 10月下旬の巡回調査では、発生ほ場率10.0%（平年19.9%）、寄生株率4.2%（平年4.9%）で平年並みであった（±）。

イ 気象予報では、11月の気温は平年並み～高い（+）。

### (3) 防除対策

#### <防除判断>

ハダニ類は体長が0.5mm程度と小さいため、ルーペを使用するか、葉裏に白紙を擦り付けてハダニが潰れた薄緑色や赤色の痕跡を確認する。ナミハダニは体色が薄緑色で、体色が赤いカンザワハダニに比べ確認しにくいいため、より注意が必要である。

#### <防除のポイント>

ア ハダニ類は部分的に発生することがあるので、ほ場全体をよく観察し、発生を認めたら直ちに防除を行う。

イ 下葉の裏に多く寄生しているので、不要な下葉を除去した後、薬剤を丁寧に散布する。

ウ 気門封鎖剤等の物理的防除剤は卵には効果がないため、7～10日後にもう一回散布する。

エ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避ける。

オ 天敵昆虫（チリカブリダニ、ミヤコカブリダニ）は次のことに注意して使用する。

- (ア) 発生初期に放飼する（ミヤコカブリダニはハダニの発生前の放飼可能）。
  - (イ) 天敵昆虫に影響の少ない農薬を使用する。
  - (ウ) ハダニが発生している場所の近くを中心に放飼する。
- カ 開花期以降に薬剤散布を行う場合は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。ミツバチの巣箱は、薬剤の影響が無くなってから施設内に戻す。

野菜全般

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	平年並	多	若齢幼虫期

(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の巡回調査では、ハクサイでの発生ほ場率20.0%（平年17.6%）、寄生株率0.4%（平年0.5%）で平年並みであった。キャベツでの発生ほ場率58.3%（平年43.2%）、寄生株率3.8%（平年2.6%）で平年並みであった。イチゴでの発生ほ場率25.0%（平年25.7%）、寄生株率1.4%（平年1.1%）で平年に比べやや多かった（±〜+）。

イ フェロモントラップ（6か所）における9月5半旬〜10月4半旬の誘殺数は、平年並みであった（±）。

ウ 気象予報では、11月の気温は平年並み〜高い（+）。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

ア ほ場をよく観察し、若齢幼虫の集中した葉を見つけ次第捕殺する。

イ イチゴ等の施設栽培では、葉の裏や鉄骨パイプ等に産卵することが多いので、黄褐色の毛に覆われた卵塊を見つけ次第捕殺する。

<防除のポイント>

ア 防除薬剤は、ハスモンヨトウ3齢幼虫の各種薬剤による死虫率（表1）、ハスモンヨトウ4〜5齢幼虫に対する各種薬剤の効果（表2）参照。

イ 中〜老齢幼虫には薬剤の効果が悪るので、若齢幼虫時の防除を徹底する。

ウ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

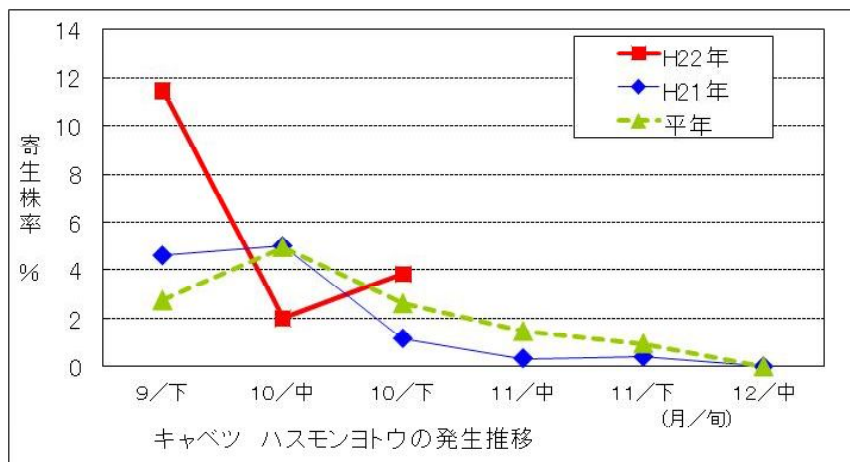


表1 ハスモンヨトウ3齢幼虫に対する各種薬剤の効果

2010年

薬剤系統	商品名	希釈倍率(倍)	採集場所					評価
			山陽小野田市	防府市	岩国市	光市	平均	
合成ピレスロイド	トレボン乳剤	1000	23.5	63.2	85.0	60.0	57.9	×
	アディオオン乳剤	1000	5.0	15.0	0.0	0.0	5.0	×
有機リン	オルトラン水和剤	1000	25.0	35.0	15.0	15.0	22.5	×
	エルサン乳剤	1000	10.0	40.0	55.0	5.0	27.5	×
カーバメート	ランネート45DF	1000	15.0	35.0	15.0	30.0	23.8	×
IGR	ロムダンフロアブル	2000	90.0	100.0	85.0	85.0	90.0	◎
	ファルコンフロアブル	4000	50.0	90.0	80.0	100.0	80.0	△
	カスケード乳剤	2000	65.0	100.0	85.0	25.0	68.8	△
	ノーモルト乳剤	2000	100.0	100.0	100.0	80.0	95.0	◎
	マトリックフロアブル	2000	90.0	65.0	70.0	90.0	78.8	○
BT (アザワイ系)	ゼンターリ顆粒水和剤	1000	5.6	10.5	0.0	10.0	6.5	×
	フローバックDF	1000	10.0	10.0	0.0	0.0	5.0	×
その他	プレオフロアブル	1000	85.0	100.0	95.0	100.0	95.0	◎
	カウンター乳剤	2000	100.0	95.0	100.0	100.0	98.8	◎
	アフアーム乳剤	1000	95.0	65.0	90.0	60.0	77.5	△
	トルネードフロアブル	2000	95.0	100.0	40.0	65.0	75.0	△
	プレバソンフロアブル	2000	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	◎
	フェニックス顆粒水和剤	2000	100.0	100.0	85.0	100.0	96.3	◎

注1) 人工飼料浸漬法により実施

注2) 処理6日後に判定

注3) 表中の数字は補正死虫率(%)

注4) 評価 ◎: 効果が高い(死虫率85%以上) ○: 効果はある(死虫率65~85%)

△: 効果にふれがある ×: 効果が低い(死虫率65%未満)

表2 ハスモンヨトウ4~5齢幼虫に対する各種薬剤の効果

2010年

薬剤系統	商品名	希釈倍率(倍)	採集場所					評価
			山陽小野田市	防府市	岩国市	光市	平均	
IGR	ロムダンフロアブル	2000	70.0			*	70.0	○
	ノーモルト乳剤	2000	100.0	100.0	100.0		100.0	◎
その他	カウンター乳剤	2000	100.0			*	100.0	◎
	アフアーム乳剤	1000	80.0	60.0	60.0		66.7	△
	トルネードフロアブル	2000	0.0	30.0	30.0		20.0	×
	プレバソンフロアブル	2000	70.0			*	70.0	○
	フェニックス顆粒水和剤	2000	40.0			*	40.0	△

注1) 人工飼料浸漬法により実施

注2) 処理7日後に判定

注3) 表中の数字は補正死虫率(%)

注4) \*: 薬剤効果試験実施中

注5) 評価 ◎: 効果が高い(死虫率85%以上) ○: 効果はある(死虫率65~85%)

△: 効果にふれがある ×: 効果が低い(死虫率65%未満)

## 2 オオタバコガ

平成22年(2010年)10月18日付け病害虫発生予察技術資料第12号を参照する。

### (1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
多	多	多	若齢幼虫期

### (2) 予報の根拠

ア 10月下旬の巡回調査では、ハクサイでの発生ほ場率20.0% (平年2.8%)、寄生株率0.6% (平年0.1%)で平年に比べ多かった。キャベツでの発生ほ場率91.7% (平年26.4%)、寄生株率7.5% (平年1.7%)で平年に比べ多かった。イチゴでの発生ほ場率5.0% (平年1.2%)、寄生株率0.3% (平年0.0%)で平年に比べ多かった。(+)。

イ 気象予報では、11月の気温は平年並み～高い(+)。

### (3) 防除対策

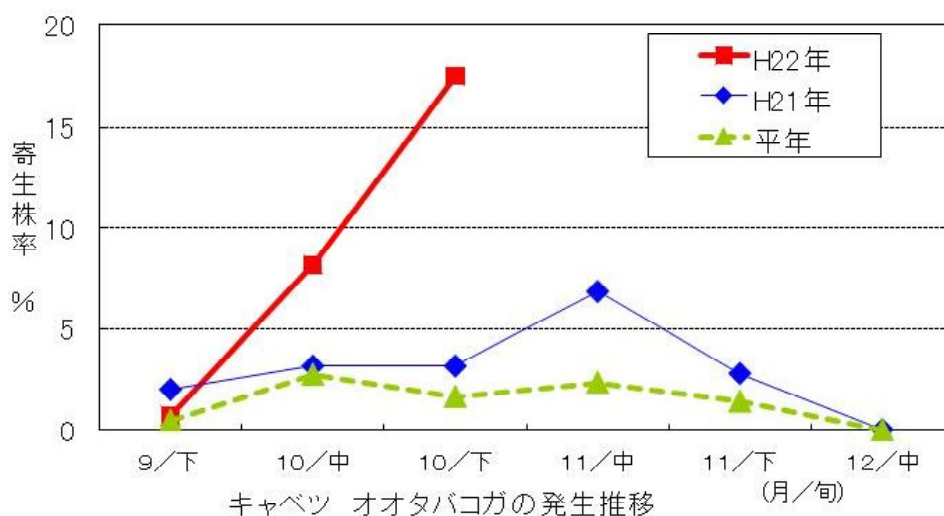
#### <耕種的防除等>

定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、幼虫を見つけ次第捕殺する。

#### <防除のポイント>

ア 中～老齢幼虫はハクサイやキャベツの結球部に食入するので、若齢幼虫時の防除を徹底する。

ウ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



## 【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	予想発生量	現況		発生ほ場率		備考
			平年比	前年比	本年(%)	平年(%)	
キャベツ	ウワバ類	平年並	平年並	少	16.7	25.7	
	シロイチモジ ヨトウ	多	多	多	33.3	8.1	



### Ⅲ 参考

#### 1 予報の見方

##### (1) 病害虫発生量の基準（原則として過去10年間の発生量と比較）

###### ア 平年比

多	過去10年間で最も多かった年と同程度以上の発生
少	〃 で最も少なかった年と同程度以下の発生
やや多	〃 で2～3番目に多かった年と同程度の発生
やや少	〃 で2～3番目に少なかった年と同程度の発生
平年並	〃 で標準的にみられた発生（上記4項目を除くもの）

（注：過去の発生量との比較を表わすもので、被害や防除の必要性とは異なる）

###### イ 前年比

多	平年比の5段階評価で区分し、前年の評価より多い発生
少	〃 前年の評価より少ない発生
前年並	〃 前年の評価と同等の発生（上記2項目を除くもの）

##### (2) 予報根拠における発生要因の評価基準

+	発生を助長する要因
±	発生の助長及び抑制に影響の少ない要因
-	発生を抑制する要因

#### 2 気象予報

##### (1) 概要

###### 1か月気象予報（10月29日福岡管区気象台発表）

予 報	低 い (%) 少 ない	平年並 (%)	高 い (%) 多 い
気 温	20	40	40
降 水 量	30	30	40
日照時間	40	30	30

###### 週ごとの気温傾向

予 報	低 い (%)	平年並 (%)	高 い (%)
1 週 目	20	40	40
2 週 目	30	40	30
3～4週目	20	40	40

#### 3 11月のテレホンサービスの内容（予定）TEL(083)927-4649

時期	内 容
上旬	11月の発生予報、ハクサイベと病の防除、イチゴ病害虫の防除
中旬	稲わらの秋冬期耕き込みによる耕種的防除、野菜病害虫の発生状況と防除、農薬の適正使用
下旬	イチゴ病害虫の防除、カンキツ類貯蔵病害の防除、農薬の適正使用